

科学研究費助成事業（基盤研究（S））事後評価

課題番号	18H05219	研究期間	平成30(2018)年度～ 令和4(2022)年度
研究課題名	シナ＝チベット諸語の歴史的展開 と言語類型地理論	研究代表者 (所属・職) (令和6年3月現在)	池田 巧 (京都大学・人文科学研究所・教授)

【令和6(2024)年度 事後評価結果】

評価		評価基準
	A+	期待以上の成果があった
○	A	期待どおりの成果があった
	A-	一部十分ではなかったが、概ね期待どおりの成果があった
	B	十分ではなかったが一応の成果があった
	C	期待された成果が上がらなかった
<p>(研究の概要)</p> <p>本研究は、東南アジアから東アジアの広域に帯状に分布するシナ＝チベット諸語と漢語方言の多様性と連続性、その歴史的変化を解明するために、音韻・語彙・文法の類型構造の比較分析を進めるプロジェクトである。</p>		
<p>(意見等)</p> <p>研究代表者を中心に多数の研究協力者が連携しつつ、シナ＝チベット諸語の未記述言語と文献を現地調査し、文法的機能とメカニズム、周辺言語との関連性、地域特徴の形成を分析し、国際学会での発表並びに学術雑誌による公刊をしており、高いレベルでの研究成果を公表するなど期待どおりの研究成果を上げたと考えられる。また本研究によって、地域の言語文化に対する新たな認識と振興に貢献したほか、辞典編纂のためのデジタルツールなどの基盤整備を行ない、その言語の保存と継承に寄与する可能性を示しており、研究成果の社会的還元という点でも評価できる。</p>		